

2025/4/27

「群れの命」

マタイ 17:1-8

イースターを迎えてから、一週間が経ちました。急に気候もあたたかくなり、花が咲いては散り、新緑が萌えています。今週からは大型連休もスタートです。目まぐるしい毎日の中で、神様の与えてくださる恵みに、心を整えられて、歩みましょう。

神のご計画

今朝の「山上の変貌」は、「歴史の舞台裏」と表現できるでしょう。映画の舞台挨拶や、舞台のこけら落しのように、ストーリーに込められた思いや、背景が露わにされます。世界は、神の壮大なご計画のシナリオによって、大きく動いていると聖書は語ります。表舞台では、イエスは、風采のあがらない変わり者に過ぎません。弟子たちも同じです。でもそれは、古今東西の戯曲や小説と同じように、ドラマチックな展開の冒頭に過ぎません。偉大な作品はそこに、普遍の真実があります。神様のご計画とは、神の国の実現であり、神の愛と義の完成です。決して、歴史は偶然の連続ではありません。

監督と脚本家と大スターが、顔を合わせて語り合うように、まばゆい光の雲に包まれて、旧約のモーセとエリヤがイエス様と語り合う光景を、プライベートシートで3人の弟子たちは間近に見ることができたのです。

御心を成し遂げる

教会創立 80 周年を迎える、今年の教会総会礼拝です。主題に掲げたヨハネ 4:34 は、昨年インド短期宣教旅行で、韓国人宣教師のアンカンヒ師のメッセージで与えられました。そのメッセージは、この山上の変貌の箇所と共に、語られていました。それは、神の御心を「自己満足」の範疇に納めてはならないという内容でした。

ペトロは、あまりの素晴らしい光景に、これをとどめておく場所を作ろうと提案しました。大会堂を建立したり、功績のデータを残したり、そんな考えと同じでしょう。

けれど、そのときに、もう一人の存在の声がありました。そう、主ご自身です。

神様の願いは、全世界の救いでした。「これに聞け」といわれたイエス様は、十字架にかかり、その業を成し遂げられた方です。ペトロのように「ここに来れば栄光が拝せる！」と人々に証しするだけで満足するのではなく、その体験を与えられた一人ひとりが、実際に同じ栄光がこの世界に実現するために、仕える者となりなさいとこの箇所は語っています。地の果てに至るまで、そのなすべき務めは広がっています。

ホーリネス誌で、「群れ」とは「命を守るもの」という意味があると知りました。その命とは、自分と兄弟姉妹、隣人の命と繋がっている命です。そこに傍観者は存在しません。神様のシナリオの中で、私たちは皆が御心を完成させるために、仕える存在として、生きているのです。「アクション！」神様のメガホンが、今週も鳴り渡ります。神様の御心を託されている、その果てしない大きな使命を、見失ってははいけません。